

肺の手術を受ける方に：胸腔ドレーン管理の臨床研究に参加しております

胸腔ドレーンとは、肺の手術後に胸の中に入っている細いチューブです。肺から漏れてくる空気や胸の中にたまった水を体外へ排出し、肺を広げやすくするために留置しています。効率よく肺を広げるために適切な力で掃除機のように吸い出すのが一般的ですが、どれくらいの力で吸い出すのが空気漏れを早く止める効果があるのかは実際にはまだ議論が分かれております。そこで当科で肺の手術を受けられた方の術後のデータ（空気漏れがあった場合に止まるまでの期間、吸引システムや吸引圧など）を他の沢山の施設とともに集めて解析を行うことで、ベストな治療方法を見つけ出そうという臨床研究に参加しております。

この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。もちろん個人特定にかかわる情報は提出しません。この案内をお読みになり、ご自身やご家族がこの研究対象者にあたると思われる方の中でご質問のある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないとお思いになりましたら、遠慮なくスタッフにお伝えください。なお、登録を拒否されたことで、日常の診療等において不利益を被ることは一切ございませんことを固く約束します。

研究期間： 2019年 1月 1日 ～ 2019年 12月 31日

実施責任者：平塚共済病院 外科 山仲一輝